

やまびこ

第112号

平成28年 3月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「言葉の力」

理事長 落 司 量 則

ヒトが他の動物と最も異なる点は言葉を使うことだ
という説がある。ヒトが人らしく生きるために言葉は
大事である。また言葉には人を力づける不思議な力が
あるものだ。私もこれまでの人生の中で沢山の良い言
葉に出会ったし、また心が折れそうになった時、周り
の人の言葉で励まされ、立ち直れたことが幾度もあっ
た。学生の頃だったか、自分の吐いた言葉が人を傷つ
けたり、自分のとった行動に後悔し、くよくよと幾夜
も眠れぬ日が続いたことがよくあった。或る時、その
ことはもう済んだことで取り返しはできない、それを
教訓にしてこれから生かしていこうと思った時、前向
きな気持ちが出てきて以後はあまりそういうことはな
くなったように思う。また社会人になって二年目ぐらい
に仕事に自信が持たなくなつて会社を辞めようと上司
に話した時、上司の励ましの言葉で立ち直ったことも
ある。その時の上司の言葉は私の良い点を誉める言葉
が沢山あった。言葉はできるだけ「ポジティブ」な言
葉を使った方がよい。自分を卑下するのではなく、気
持を明るくする、行動に打って出る言葉を使う習慣を
つけた方がよい。他人に対してもそうだ。失敗しても

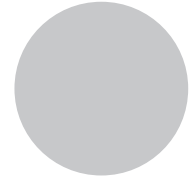
いたわるような言葉を使うだけでずい分気持ちが変わっ
てくる。

イギリスが植民地を沢山つくっていた時代、「君臨
すれど同化せず」で植民地でも自国の文化をしっかり
保つて暮らし、現地の人々とは一線を画していた。だ
がイギリス人は君臨しても鼻つまみにならなくてすむ
言葉の一つもついていた。それは「サンキュー」だとい
う。イギリス人はちよつとしたことでも「サン
キュー」というようだ。申し出を断わる場合、「ノー
サンキュー」という言葉があるが、否定でも「サン
キュー」という響きが残り相手は不快にはならないよ
うだ。日本語の「ありがとう」もできるだけ使った方
が良い。私も若い頃はあまり使わなかったが、或る程
度年令がいつてからよく使うようになった。「ノーサ
ンキュー」は日本語には無いので、否定する場合、ま
ず「ありがとう」といって、その後、断わり文句を
いった方がよいようだ。

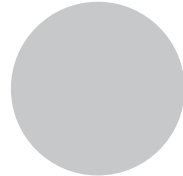
このように言葉の力は大きい。良い言葉を沢山学
び、前向きな言葉を使つていく習慣をつけたいもので
ある。

プロフィール

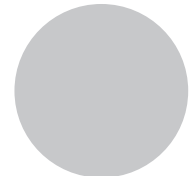
- ①氏名
- ②現住所
- ③出身校
- ④入学校



- ①濱田 祐佳里
- ②勝田郡勝央町
- ③勝央中
- ④作陽高校



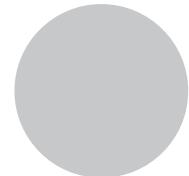
- ①安井 絵里果
- ②岡山市南区
- ③芳泉中
- ④岡山芳泉高校



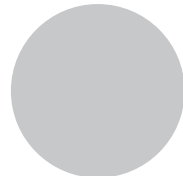
- ①小林 桜子
- ②岡山市北区
- ③石井中
- ④岡山工業高校



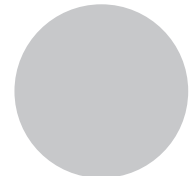
- ①久保田 実歩
- ②津山市
- ③津山西中
- ④美作高校



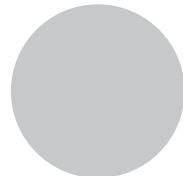
- ①上原 志保
- ②岡山市北区
- ③京山中
- ④就実高校



- ①片山 歩
- ②倉敷市
- ③味野中
- ④倉敷中央高校



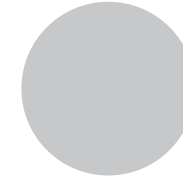
- ①松田 祥子
- ②倉敷市
- ③倉敷第一中
- ④倉敷高校



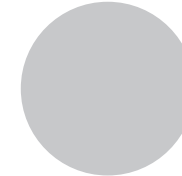
- ①笠 富花
- ②岡山市南区
- ③芳田中
- ④岡山芳泉高校

新入会員の紹介 合格おめでとう！

4月より17名の高校生が新しい仲間として入会されます。
温かくお迎えしましょう。



- ①日下 侑希
- ②岡山市南区
- ③灘崎中
- ④倉敷高校



- ①武田 宗真
- ②岡山市南区
- ③福田中
- ④岡山朝日高校



- ①佐藤 海斗
- ②勝田郡勝央町
- ③勝央中
- ④津山高専



- ①高橋 大地
- ②岡山市北区
- ③石井中
- ④岡山一宮高校



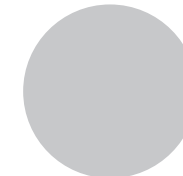
- ①津本 宥海
- ②津山市
- ③津山西中
- ④美作高校



- ①井上 彪馬
- ②岡山市北区
- ③岡山大学附属中
- ④岡山朝日高校



- ①井上 唯
- ②倉敷市
- ③多津美中
- ④倉敷青陵高校



- ①栗山 裕唯
- ②岡山市南区
- ③灘崎中
- ④岡山芳泉高校



- ①植木 龍翔
- ②岡山市東区
- ③旭東中
- ④就実高校

目次

巻頭言	理事 長	落 司	量 則
新入会員紹介	理事 南		智 1
時間……………	理 事	南	智 1
朝食は脳を活性化する……………	〃	岡 征二	郎 2
一泊五日世界一周の旅……………	〃	岡 田 浩	明 3
『論語』を読んでみませんか……………	〃	國 友 道	一 5
高校三年間……………	〃	高 校 三 年	檜 原 大 毅 7
高校生活……………	〃	濱 田 恵 理	香 7
私流「受験の心得」……………	〃	岩 田 真 央	8
特別な三年間……………	〃	佐 伯 拓 馬	9
三年間を振り返った……………	〃	河 本 柚 月	10
現実……………	〃	松 村 優	11
人との「縁」について……………	〃	水 川 碧	12
十年後の私……………	〃	藤 原 淳 平	13
卒業を前にして……………	〃	黒 住 美 恵 子	14
今までとこれから……………	〃	安 井 佑 果	15
高校生活を振り返って……………	〃	高 橋 聖	16
近況報告……………	〃	蘆 原 薫	17
高校生活を終えて……………	〃	酒 井 彩 夏	18
サラバ青春……………	〃	合 田 紗 也	18
バスケを通じて……………	〃	吉 川 智 也	19
高校生活……………	〃	宇 野 美 咲	20
高校生活を振り返って……………	〃	三 宅 晟	21

息抜き……………	高 校 二 年	栗 山 惠 輔	21
教育について考えて……………	〃	熊 谷 舞 佳	22
健康について……………	〃	黒 田 尚 輝	23
犬と私……………	〃	井 上 真 実	24
三年〇学期……………	〃	小 林 陽 一 郎	25
今、生きているこの瞬間を全力で生きる……………	〃	守 時 優 里	26
去年を振り返って……………	〃	檜 原 勝 也	27
タイムリミット……………	〃	藤 原 淳 美	28
宝塚歌劇団について……………	〃	影 山 都 花	29
近況報告……………	〃	戸 田 花	30
「課題研究」で優秀賞を獲ったこと……………	〃	名 田 怜 央	30
先輩の手塚賞準入選……………	〃	吉 川 朋 之	31
全国大会への思い……………	〃	濱 田 実 苗	32
高校生になって……………	高 校 一 年	産 本 龍	33
今年目標……………	〃	杉 岡 大 輝	34
一年を振り返って……………	〃	小 竹 守 花 恵	34
時間の大切さ……………	〃	青 山 公 士	35
新たな年を新たな気持ちで……………	〃	佐 伯 吏 咲 子	36
決意……………	〃	植 本 圭 祐	37
読書感想文……………	〃	三 宅 竜 矢	38
一年を振り返って……………	〃	小 西 菫	39
お便りコーナー……………	〃		40
編集後記……………	〃		42

時間

理事 南 智

時間といえはまず時計を連想する。腕時計であれ、携帯・スマホに内蔵されている時計であれ、刻一刻を量として測定される時間を發送の基本としている。しかし、歴史的にみると、機械としての時計が無い時代が圧倒的に長いのである。

昔は、日の出・日の入り・南中といった太陽の動きとか、月の満ち欠けで時を認識していたのである。また、熱帯では雨季と乾季の周期的な反復を、温帯では四季の移ろいが時の経過を意識させていた。

春は花 夏ほととぎす 秋は月
冬雪さえて 冷しかりけり

川端康成が、ノーベル文学賞受賞の講演「美しい日本の私」で引用された道元禅師の歌である。これは、四季の美の歌であり、古来、日本人が春・夏・秋・冬に愛でる自然を詠んだものである。

こうした自然のリズムと不可分の形で、日々の暮らしの中で時間が感覚されてきたのであり、生活の営みが自然

円環のリズムに即していたのである。

自然のリズムに照応しながらも、一定の量として時間を測定しようとする試みは古くからあった。天智天皇の水時計、古代メソポタミアの日時計など有名なものは多い。しかし、十三世紀中葉頃のヨーロッパであるとされている一定のリズムで時を刻み続ける機械仕掛けの時計は、人びとの時間の感覚や時間の意識を大きく変えた。現在では、季節にも天候にも左右されない等量でリズムを刻む定時法の世界となった。精巧な時計が示す単位としての時間は、特別の意味が与えられることはない。時計のない時代の教会や寺の鐘は、季節によって鳴らされる間隔は一定ではなかった。つまり、日の出と日の入り基準とするので、季節によつて時刻は異なったのである。不定時法である。

アメリカ建国の父ベンジャミン・フランクリンの時にかかわる名言の一つ。

もし、あなたが自分の人生を大切に思うならば、時間を浪費しないことだ。

なぜなら
人生は時間で出来ているからだ。

(元ノートルダム清心女子大学教授)

朝食は脳を活性化させる

理事 岡 征二郎

私は、仕事に就いていない現在でも、朝食は必ず摂るようになっている。仕事をしている頃からの習慣と言えはそうであるが、起床後速やかに脳を活性化し、一日を元気に過ごすためであった。それが習慣化されて現在に至っているものと思われる。このことを脳科学の立場から論じてみたい。

第一にいえることは、脳はブドウ糖不足に弱いと言うことである。朝食をとることにより、血液中のブドウ糖の濃度を上げることが出来る。通常、人間の血液1dl中のブドウ糖は100mgに維持されているが、少し激しい運動をした後や、空腹のときは60〜70mgになる。脳はブドウ糖のレベル低下に弱いのである。ブドウ糖のレベルが低下すると、思考力が低下し、怒りっぽくなったり騒音に敏感になったりする。さらに低下して、50〜60mgでは、意識を失ったりすることがある。だから朝起きたら、一番に食事を摂っている。

もうひとつのポイントは、体温の上昇である。人間の体温と一緒にレシチンを多く摂取することになり、脳には有効である。レシチンがたくさん含まれている卵と一緒に食べると、大豆タンパクの欠陥である必須アミノ酸のメチオニン不足を補えることにもなる。

大脳生理学の立場からすると、勉強するのに最もよい時間帯は、食事をして二時間後くらいがもっとも有効である。食事をして血糖値が高くなると、脳で作られるFGF（繊維芽細胞成長因子）と言う物質が、脊髄液中に増えだし、普段の千倍もの量になる。FGFは脳を活性化し、記憶力を増進させる物質である。

FGFがピークになったときには、脳の中ではシナプスの長期増強現象（※注）が起こりやすくなっており、このときに情報を送ると、スムーズに学習や記憶が出来るのです。

以上、大脳の働きを中心にして栄養と脳のかかわり方のさわりの部分を調べてみました。学習効果や記憶の効果等に就いては、一人ひとりの日常生活とのかかわりがあることも事実であると思います。

（※注）長期増強とは、シナプス前細胞とシナプス後細胞を同時に刺激することにより、二つの神経細胞間の信号伝達が持続的に向上する現象である。シナプス前細胞から受け取られるシナプス後細胞の感受性の増加によって信号

温には二十四時間周期のリズムがあり、平均すると午後二時頃に最高値、午前二時頃に最低値を示し、その差は1℃におよぶ。午前中の知的能力をアップするためには、なるべく早く体温を上昇させることである。食べ物を摂取すると一時間後をピークに、五〜六時間ほど体温の増加が持続する（この現象を食べ物の「特異動的作用」と呼ぶ）。タンパク質はこの作用が最も強く、摂取カロリーの20％は、この種の熱に変わる。脂肪、糖は、5％程度である。さらに脳は普通の臓器と違ってブドウ糖だけをエネルギー源としているのです。朝の脳にはこのブドウ糖が不足しているのです。脳にブドウ糖が不足するといらいらしたり、怒りっぽくなったり、集中力がなくなります。これらのことから、朝は炭水化物とタンパク質のバランスのよい朝食が頭脳の活性化に有効である。

脳には、エネルギー源のブドウ糖ばかりでなく、多種多様な栄養素が必要とされている。脳の細胞を作るアミノ酸や脂肪、神経情報のスムーズな伝達に必要なカルシウムなどのミネラル類、アミノ酸の代謝に必要なビタミンB6ほかビタミン類など。大量に摂取すると記憶力が向上するのはレシチンである。レシチンは脂肪の一種で、肉類や大豆、麦芽、ピーナッツなどに多量に含まれている。日本人は習慣として、味噌汁や納豆を食べているが、これはタンパク

伝達が向上すると考えられている。

参考文献・「賢い脳の作り方」BRAIN SCIENCE

講談社 QUARK編集部

（元旭川荘療育センター児童院顧問）

一泊五日世界一周の旅

理事 岡 田 浩 明

地球は本当に丸かった。昨年一月二十六日、私は友人二人とともに、夕刻羽田を飛び立った。目指すは地球の裏側、南米イグアスの滝、そして念願のマチュピチュである。飛行は順調で、日付変更線を飛び越え、約十二時間のフライトでカナダのトロントに降り立った。途中、凍てつく五大湖の姿が地図と一緒に感激した。夜の十一時、サンパウロに向けて出発。十時間のフライトで到着し、更に国内線二時間でイグアス空港着、ホテルに入ったのが午後六時頃である。

はるばるやって来たとの思いとともに携帯の電源を入れると、妻からすぐ連絡せよとのメールがあり、ホテルにも

同じ趣旨の伝言があった。電話口の妻の言葉は、「母が急逝した。すぐ帰れ。葬儀の日程を決めるためいつ帰れるかを知らせよ」とのことである。母とは二十五日夜、「行ってくる」「気をつけて行ってこい。あまり酒を飲むな」が最後の会話であった。

添乗員さん手配の一番早い便は、翌日の夕刻イグアス発、サンパウロからアフリカを飛び越えてドバイへ、乗り継いで関西空港に三十日夕方に着く予定である。

翌日は午前中イグアスの滝を観光。水しぶきを浴びながらボートで瀑布の下にも行き滝を満喫したが、昼に帰国のため一行と別れてからが大変であった。

イグアス空港へは現地の人が行きしてくれたが、会話は片言の英語のみで早速つまずいた。昨夜航空券の手配をしていたははずであるが切符はなく、空港のカウンター前で添乗員に電話をかけ、何とかサンパウロまでは行けることになった。サンパウロ空港でエミレーツ航空のカウンターに行き、国際線の発券をしてもらい帰国せよとの指示である。

サンパウロ空港でも一騒動。国内線から国際線へ。来た時と反対のコースに進んだが見つからない。英語で話しかけてもうまくいかない。ここはブラジル、ポルトガル語の国だと実感した。たまたま、エミレーツ、エミレーツと連

る」で、皆をあきれさせたようである。

かくして一泊五日、世界一周の旅は終わったが、得たものは二つ、一つは地球規模でものを見ることの大切さ、二つ目は、(この歳でも) やれば出来るとの自信である。

私は元は地理の教師で、地図もその歴史も教えたが、ほとんどの生徒の世界観は、球体を平面に写した、日本を中心としたメルカトル図法などの世界である。地球上の最短コース(大圏コース)は理解しにくく、ヨーロッパなどの地図では日本は世界の端っこで、また南半球を上にした地図など想像もつかない。

しかし、地球は球体で、太陽に向かって地軸は傾いているものの、何処を中心に見ても良い。地球上には多くの人々が住んでいるが、相手に唾すれば自分に返ってくる、運命共同体である。地球規模とは、その様な考えであると改めて納得した。

ドバイでは、ゼミでヨーロッパに行き、少し回り道をして帰る途中という日本の学生と出会った。「これから横になつて寝るから、時間が来たら起こしてくれ」と頼んだら快諾してくれた。異国で安心して頼める人、世界中の人や文化に触れ、たくましく行動している若者を見て、私自身の安堵感とともに、頼れる人、託せる人の姿を見つけたと、大変うれしく思った次第である。

呼すると、返事は皆スリー、スリーである。第三ターミナルと理解し引き返すと、目指すカウンターがようやく見つけた。しかしそこは長蛇の列で時間も切迫してくる。思い切つて空いている隣のカウンターで、つたない英語と日本語で状況を訴えていると、「どうしたんですか」との日本語とともに、神と思える人が現れた。そこからとんとン拍子に進み、切符の発券、荷物の関空直送など全てが整った。誤算はただ一つ、イグアスの滝で、頼みの、帰国を伝える携帯に水が入り不調となった。電池もほとんど無く、それでも午前一時半発の、ドバイ行きの便に乗り込んだ。

ドバイ着は現地時間二十一時十五分。関空行きは翌日の朝三時で、六時間弱の滞在である。搭乗口近くに陣取ってフライトを確認し、電話も通じてやっと帰れると実感したのはこの時である。予定通り関空に着き、翌日に蒜山の実家に帰ることができ、何とか喪主としての務めを果たすことができた。

この間、私を待つ家族は、「何処にいるのか、一人で帰つてこれるのか、どうしてドバイ経由なのか」が話題となったようである。また妻は、これで旅好きも少しは懲りただろう、と思つたらしい。旅行コースの謎は、二男のミカンを使つての解説が好評を博したとのことであり、帰国後の私の第一声は、「自信がついた。これでどんな旅も出来

それから一年。孫に地球儀をプレゼントしたこと、母の供養や実家の管理で度々蒜山に帰り、故郷の良さを再認識したこと、そして十月には、シリア、イラクなど七つの国と隣接するトルコを旅し、日本との友好親善の歴史とともに、多くのことを考えさせられた。

私にとって、積極的に行動することの大切さなど、多くのことを教えてくれた、短い世界一周の旅であった。

(岡山理容美容学園理事長)

『論語』を読んでみませんか

理事 國 友 道 一

『論語』と言えば古めかしい印象を受けますが、生き方の核心を突いた言葉が多いため新鮮に感じることがあります。また、表現が簡潔でリズム感に富んでいるため声に出して読んでみると心地よさを感じることがあります。

『論語』は、近世をはじめとして国家体制を維持するための道具として使われたことがあったため、偏見をもって見られることがあります。しかし、現在は、そのような過

去のしがらみから解放され、『論語』に素直に接することが出来る時代になったように思います。まさに、『論語』は、生き方のヒントが得られる名言の宝庫です。

例えば、「己を克(せ)めて礼に復(かえ)るを仁と為す。一日己を克めて礼に復れば、天下仁に帰す」という章句があります。

これは、孔子の弟子である顔淵(がんえん)が「仁(人の道)」とはどうあるべきでしょうか」と質問したのに対して孔子が答えたものです。孔子は、「利己的な考えを抑え、社会の規範に沿った生き方をすることが人の道である。ひとたび利己を抑えて、社会規範に沿った生き方をすれば、世の中は皆が住みやすい場所になるであろう」と答えています。今の世の中は、法律に触れない限り、何をしても自由な時代です。その自由が無責任で欲望のままに行動する利己主義的な自由であってはけません。人間は誰しも多くの人が集まる社会の中で生活しているため、周りの人に迷惑をかけることのない自律的な自由でなければなりません。この論語の章句は、社会の一員としての自律的な生き方の大切さを述べているものです。

また、われわれの人生は急所難所が多く、決して平穏な日々ばかりではありません。また、選択肢が複数有り、どの道を進めばよいか判断に苦しむことも度々あります。自

高校三年間

瀬戸高校三年 檜原大毅

僕はこの三月に高校を卒業します。振り返ってみるとあつという間の三年間だったと思います。そう感じる理由は、自分の中でこの三年間はとても充実していたものだったのだと思います。

三年前、高校生活に夢と希望を持ち瀬戸高校に入学しました。中学とは違う環境で勉学や部活動に励んでいました。高校では中学と違う勉強の量に圧倒され部活動との両立が難しかったように思います。

そして部活動では、三年生が抜けた後には主将を務め、今まで以上に部活動に力を注ぐようになりました。毎日自分に厳しくという意識で練習に臨んでいました。最後の夏の大会で初戦で敗れてしまったものの、私は二つの大きなものを得たように思います。一つはチームで一人しか経験する事のできない主将としてチームをまとめ一つの目標に向けて、日々頑張った事です。二つ目は、かけがえのない友の存在だと思います。気に入らなかったり、うまくいかない時に思っていることを本気に話し合えたからこそ自分

分だけが進路が決まらず、落ち込んでしまうような場合もあるでしょう。そのような時にどの道を選択すればよいか、何を頼りに人生を立て直してゆけばよいか。家族、友人、先輩などさまざまな支援はあるでしょうが、最終的には自分で判断をしなければなりません。そのような場合に『論語』の言葉が背中を押してくれることがあります。

例えば、「速やかならんことを欲する無かれ。小利を見ること無かれ」という章句があります。「努力しても結果がすぐに出ない場合でも、目先のことに目を奪われることなくじっくりと腰を落着けて取り組むことが大切である」という教えです。少し時間がかかるかもしれませんが、目標に向かってあせらず一歩一歩前進してほしいと思います。時には、「うさぎ」ではなく「かめ」になることも必要です。

これからの人生、楽しいことだけでなく苦しいことや困難なことに出くわすことがあると思いますが、決してくじけることなく自分の人生を完走してください。あなたを励ましたり、勇気づけたりしてくれる言葉が『論語』の中に見つかるはずです。ぜひ一度、『論語』を読んでみませんか。大きな声を出して。

(岡山県青少年教育センター 関谷学校所長)

なかでかけがえのない存在になっているんだと思います。これからも一生の付き合いにしたいと思っています。

そのような事が出来たのは「八正会」のおかげだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。僕たち三年はそれぞれの道に進んで行きますが、八正会の研修やたぐさんの人からのお話を聞いた経験を生かし自分達のそれぞれの道を行きたいと思っています。

今回で八正会の方も卒業という形になりますが、また機会があれば、八正会の方におじゃまして、後輩達のお手伝いをさせていただきたいと思っています。本当にこの三年間ありがとうございました。

高校生活

岡山朝日高校三年 濱田 恵理香

「高校生」でいられるのも残すところあと約一ヵ月となりました。高校生活を振り返ってみると、勉強、部活ともに忙しくてほんとうにあつという間に感じました。三年生で最後の文化祭・体育祭では衣装や振り付けから音源作成

などやらなければならぬことの多さに圧倒されました。たくさんの人達の協力のおかげで無事にやり切ることができ、競技と仮装の部ともに賞状をもらったことは楽しい思い出の一つとなりました。

八正会での思い出も私の高校生活にとって欠かせないものです。学校の異なる仲間との交流を通じて多くの事を学ぶことができました。OBの方々や先輩方の経験談は、身近に将来を感じることができ、大変参考になりました。

センター試験を終えた今、二次試験に向けて気持ちを新たに切り替えているところです。受験生としての自覚を持ち、悔いのないようにあと残り少ない限られた時間を有効に使い、やれるだけのことを精一杯頑張りたいと思います。最後になりましたが、三年間多額の奨学金と多くの貴重な体験をありがとうございました。

私流の受験の心得

倉敷青陵高校三年 岩田真央

八正会へ入会させていただいて、早いもので三年が経ち

ました。この最後の作文で、三年間を通して私が心得たことを記したいと思います。現時点でこの大学にも受かっていませんが、センター試験までの道のりを。

一、一・二年生のうちとにかく定期テストに全力を注ぐとよい。

定期テストはそこまで学んできた内容の総復習。年に四・五回の定期テストに向けて日頃からコツコツ少しでもいいので復習。そうすればテスト週間に苦しい思いはしません。

二、部活は最後までやり抜く。

三年になると、勉強が理由で部活をおろそかにする人がでてきます。でもその部活をしていた時間を本気で勉強にあてられる人は、あまりいないと思います。それより、部活を毎日全力でやり抜き、つらいことがあっても家や塾では切り換えて勉強をする。このルーティンを手に入れてしまえばこっちのもんです。しかもその勉強も予習とか、明日の単語テストの勉強とかで十分だと思えます。

三、他人よりも先に行動を起こす。

三年になって部活が終わると、いきなり勉強しかすることがなくなりません。そこから本気で勉強開始。でもよいのですが、それでは周囲と同じ。三年の四月から意識し始め、例えば私だと地理を徹底的に勉強し始めると、夏休みとて

も楽です。何か一つでいいので早くからしかけると、夏以降の重荷が全く違います。また、三年の夏以降は放課後周りの人がおしゃべりをしていても、「ふっ」と思いながら自分は勉強の道をつっぱしることで。

四、高めあえる仲間をつくる。

三年は模試が次々とおそってきます。その度に点数も揺れ動く。でも点数は大切ですが今はおいといて、高めあえる仲間と努力の量で競い合ってください。あっあいつ頑張ってる。自分も負けてられない！と鼓舞されたり、逆に自分も相手にそう思わせるくらい努力すると、その集団（二人でさえ）は強いです。

五、たまにテレビをみるととても笑える。

一生懸命勉強をやり抜いたその日十一時以降に見るテレビは最高です。まったく娯楽抜きで勉強をやり続けるのは無理です。自分なりの、（私でいえばテレビと日曜夜のデザートタイム）ごほうびを、大きすぎないように、つくってみてください。

六、最後になりますが、周囲の人へ感謝の気持ちを忘れないこと。私は受験期で家族や友達、先生の存在の大きさをひしひしと実感しました。つらいときに相談ののつてくれる先生や、つまらないことで笑い合える友達。受験期にそのありがたさが本当に分かります。そして、三年間私の

ために弁当作り、洗濯、夜ごはんなど他にもたくさんのことをしてくれた母や祖母に感謝します。はやく恩返ししがたくてたまりません。本当にありがとうございます。そして八正会の皆様、三年間、多額の奨学金、そして貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。社会で活躍できる大人に必ずなります。

特別な三年間

岡山操山高校三年 佐伯拓馬

センター試験が終わった。あと少しで卒業だからあと少しだけ頑張ります。正直に言う勉強は苦しい、特に僕の場合は運動が出来ないというのが非常に苦しかったです。だから、体育が部活を引退してからの唯一の楽しみであった。何が言いたいかというと、受験は頑張ることが重要でも、上手く自分をごまかしたり、ごほうびを与えたり、「気持ち」という面が非常に大切だということです。これからの人生で苦しいこともあると思います。決して逃げるという意味ではなく、立ち向かうために「気持ち」を切り

換えたり、維持していくことが大切なのだと今考えています。正直、自分はそういうことが苦手です。部活を引退して受験勉強に専念する時期になり、本当に勉強だけになっても、休日一日中家で勉強していると相当ストレスも貯まっていた、思い通りにいかないままセンターまで過ごしていました。勉強をやってきたとはいえ自信も正直持てませんでした。でも、今となってはこれからこんな事がいっぱいあるんだろう。そこを上手く、自分でコントロールしていくことが必要じゃないかと思っています。自分は一番体を動かす（特にバスケットやサッカーをする）時間が一番生きているなあと実感しています。働き始めても社会人の団体に入りたいと考えています。

最後に三年間の有意義な高校生活を支えてくれた皆様、八正会で人生の指針となるものを見つけるきっかけを与えてくださりありがとうございます。

夏研修のディベートも三年目には慣れたし、ボランティアの清掃も全力でやらなければ気が済まないほどになりました。梨狩りも、備前焼き作りも、うどん打ちや本格的な料理も初体験でした!!食前・食後の言葉には驚いたけれど、皆の前で言う日を楽しみにしていました(笑)。まだまだたくさんありますが、その全てがここでできないことだったと思います。

もう研修に参加する必要が無いのだと思うと寂しいですが、培った多くの経験を力にして、新しい環境でもたくましく過ごしていこうと思います。余裕があれば研修にも参加しようと目論んでいるので、その時はよろしくお願います。

入会したばかりの頃は、こんなに名残惜しく去ることになるなど想像もしていませんでした。多額の奨学金と成長のきっかけを与えてくださった八正会には感謝以外の言葉が見つかりません。いつか何か恩返しができるような立派な大人になりたいです。本当にありがとうございました。

最後に、四月に入会される新一年生のみなさんへ。八正会は本当に素敵なおところです。入会式は緊張すると思いますが、ぜひ四回×三年分の研修を楽しんでくださいね。

三年間を振り返った

岡山一宮高校三年 河本 柚月

今回こそ研修までに慌てないよう、早く作文をしあげようと決め既に一ヶ月。研修一週間前にやっと書き始めました。うーむ、全く学習できていない。どんまい私。

初めて八正会の研修に参加してから早三年が経ちました。原稿を書き出すタイミングについては進歩がありませんでしたが、八正会を通じてたくさんのことを学び、他ではできないような経験を重ねた三年間になりました。

一年生の時、胸いっぱい不安を抱えてトンボへやって来た春の日がとても遠くに感じられます。「友達でできなかったら辛いな」とか、「研修、何とかサボれないかな:」とか、浅はかなことを考えていました。「浅はか」なんて言われたらかつての私は「死活問題なんだけど!」と激怒していたかもしれません。ですが、卒業する今となっては、深刻に考えこんでいた私がほほえましく思えるくらいです。言ったところで信じてはもらえないでしょうが、杞憂だよと教えてあげたいくらい。そのくらい楽しくて、実りのある研修ばかりでした。

現実

岡山芳泉高校三年 松村 優

今回で現役としてやまびこを書くのも最後になりました。八正会には多額の奨学金をいただいたこと、たくさんの人と出逢う機会を与えて下さったこと、とても感謝しています。

最後のやまびこということこれから私の夢について書きたいと思います。

まず、私の夢は現時点では到底手の届かないところにあります。そのため、数年は密かに心に抱いていたのにはほんの二ヶ月前まで誰にも打ち明けられないでいました。進路も現状で実現可能なものに表向きにはしていたのですが、自分の気持ちに嘘をつくのには限界がありました。打ち明けたとしても真面目にとりあってくれないと思っていましたが、私の周りの人は親身になって聞いてくれました。ただ、センター試験直前だったので言うのが遅かったと自分でも思うし、周りの人にも口を揃えて早く言ってほしかったと言われました。いろいろな人も相談した結果、私の夢と共通している部分のことが勉強できる学部がある大学

に行こうと一度はその考えに至りました。でも、やっぱり夢を諦めきれませんでした。最終的に大学には行かないという決断をしました。夢を一浪しただけで叶えられないかもしれないし、経済的な負担もあるので専門学校に行つて働くための資格をとり、働きながら勉強して大学を再受験しようと考えています。その過程で夢と現実の境目が見えてきた時は諦めることになるかもしれませんが、今はそのつもりはありません。

最近の一、二ヶ月間はこれまでの人生のなかでいちばん悩んだ時期でした。振り返ってみると家族、友達、先生が私の心の支えでした。何度も何度も相談にのってもらったこと、私の決断に対して最善を尽くせるようアドバイスをしてくれたこと、どんな時も応援してくれたこと感謝しきれません。感謝の気持ちも忘れずこれから頑張っていきたいです。

人との「縁」について

倉敷天城高校三年 水川 碧

センター試験が終わり、卒業という時間が近づいてきました。そして、今回の原稿が最後の「やまびこ」となります。八正会に入会したのはほんの少し前のような気がするのに時が経つのは早いものです。

さて、最後の「やまびこ」には私の感じている人の「縁」について書こうと思います。私事ですが、三年前に父を亡くしました。「縁」や「人間関係」という点では、その時に私は一つの「縁」を失ったこととなります。けれどもその後の八正会への入会や高校への入学でたくさんの人たちと新しく「縁」を結びました。特に八正会の人たちは違う学校の人がほとんどで、入会しなければ出会うことが出来なかった。そう思うと、人と出会うことへの「縁」にただ感謝するばかりです。高校でもクラスだけでなく、部活に入ることによってもしかすると三年間話さなかったかもしれない人たちと出会うことが出来ました。高校生活三年間を振り返ってみて、私はやはり人の「縁」について、思いを巡らさずにはいられません。

私の好きな小説の登場人物が次のように言います。

「別れない人間関係なんてない。」

いつかは必ず別れが来る。死別という形もあり得るだろうし、遠く離れてしまつて別れてしまうという形もあると思います。これから先、私は今よりもっとたくさんの人と出会つて「縁」を結び、それがほどけてしまうことを繰り返すだろうと思います。いつかは別れてしまふけれど、だからこそ、私は人との「縁」や出合いを大切にしていきたいです。

最後になりましたが、こうした「縁」で入会した八正会の皆様、多額の奨学金をありがとうございます。

十年後の私

岡山朝日高校三年 藤原 淳平

さて今回、私がこの題材を選んだのにはわけがあります。それはそう、八正会への入会の時と同じ題材だからです。前回から三年が経ち、高校卒業という節目に考えるにはちよつどいいと思い、今回この事について書こうと決めまし

た。それでは本題へ入ろうと思います。

十年後の自分の姿を考えてみても中々はつきりとしたものがない。浮かばないのは前回と同様な気がするが、それでも前回よりもうつすらとはあるが自分が将来どんな事をしていたいかは浮かぶ気もする。この三年間で学部などを決めた事や高校生活、はたまた三年間での成長が影響していると思うが、そうすると十年後の私を考えるには大学の四年間、ないし六年間が重要な鍵をにぎるだろう。

大学。残念ながらこれを書いている時は受験シーズン真っ只中であり不安ではあるのだが、今回は受験の話は割愛しよう。正直な話、落ちた時の事など考えてられるかというわけである。話を戻すが、先程述べた通り大学は人生の方向を決めるには相当重要だろう。高校よりも専門的な事を学べ、好きな事を研究できる。はたまた、大学に入ると同時に一人暮らしがはじまるわけだ。今までよりも自由度がはね上がる一方、家事等の自立や自分の行動に責任を伴う事が増えるだろう。それらを乗り越え親への感謝をかみしめ人間的成長ができたらいいなと思う。少し大学から話はそれだが、大学生ではないのでまだはつきりとした事を書けないのはゆるしていただきたい。しかし、大学で貫きたい事はある。それは能動的、主体的に学ぶ事だ。高校時代を含め今までは私はどちらかと言えば受動的だったわけ

だが、せっかくの自由を受動的に過ごすのは大変勿体無いと思う。

次は大学、あるいは院を出た後についてだが、これが問題である。全く想像がつかないのだ。もちろん新しい何かを作っていききたいという何やらふわふわした考えだけはあ
るのだが、はっきりとしたものはまだ決まってははいない。
申し訳ないがこの先は大学生の私に任せよう。

という訳で、結局前回と同じく今回もわからないという結果になってしまいました。将来の事を考える良い機会となりました。長々と将来の事を書きましたが、とりあえず今は目の前の目標に向けて自分のやるべき事を粛々とやっていきたいと思えます。

最後になりましたが、八正会の皆様、またトンボ学生服の皆様、三年間多額の奨学金を給付してくださり本当にありがとうございました。

卒業を前にして

岡山芳泉高校三年 黒住 美恵子

もうすぐ三年生は高校を卒業します。卒業を前にして私が思うことは大きく二つあります。

私は最近、時の流れが入学時よりも何倍も速く感じています。年が明けてからセンター試験を迎えるまで、速すぎて焦りました。入学時には想像もしていなかった速さです！今でこそ『時を大切に』という事をより強く思います。これが一つ目です。ただ、今までは今ままで、私なりに一生懸命高校生活を送ったと思っているので、大きな後悔はありません。やはりそこが大切だと思います。センター前にもっと勉強しておけばよかった、と思いました。その時だから思うのであって、一年生や二年生の時の私には気付けぬ事だったのかな、と思っています。私には、です
が！（笑）経験しなければ気付けない事でした。私は今や
っと経験したので大学生になったら自分のやりたい事の為
に、もっと勉強していれば、と思わないようにしっかりと勉
強します。

二つ目に、私は高校で私を支えてくれたたくさんの人に

『感謝』をしなければと思います。楽しい時、嬉しい時の気持ちを何倍にもしてくれたのは友達で、辛い時、苦しい時の気持ちを和らげて元氣付けてくれたのも友達でした。私のためな所や弱い所を言ってくれたり、良い所を教えてくださいましたのは先生で将来の事について相談にのってくれたのは家族でした。講義などで私の知らない話を聞かせてくださった講師の方は私の考え方を深めさせて下さいました。たくさんの方に囲まれて、私は幸せだなと思います。当たり前前の事なんかじゃなくて、この人達がいなかったら今の私はいないだろうなあと。だからこそ、してもしきれない感謝をしています。

一、二年生も何事にも一生懸命後悔のないように『時を大切に』し、周りの人に『感謝』して高校生活を送って下さい！

今までとこれから

岡山芳泉高校三年 安井 佑果

ついに高校生活が終わりを迎えようとしている…。今、

思えば本当にあつという間の三年間だったなと感じます。三年間で良い思い出も苦い思い出もたくさんできました。部活動では三年生の春の最後の試合前に一人一人の意見が大きく分かれ険悪なムードになったことがありました。そんな状態が続いていた時キャプテンのMちゃんが話し合
いの場を設けてくれてそこでとりあえずそれぞれの本音を出し合っ
てどう解決すればよいか考えようということになりました。私はいつも周りの人の意見に合わせて話してしまったりただ賛成するだけ、というのがほとんどでした。しかしこの話し合いの時は、ちゃんと自分の考えを言
い表面だけの解決にはしない、と思え、気づいたら自分の本
当の気持ちを言葉にできていました。そしていつのまにか
気持ちが高ぶって目に涙があふれていました。他の部員も皆、そ
れぞれの思いをちゃんと話して六人全員が話し終わった時は皆で
ワーワー泣いていました（笑）。最終的には引退前に仲直り
できて本当に良かったです。自分の気持ちを正直に伝えること
の大切さを知ることができました。

進路についても親と意見が衝突することがあり疑心暗鬼？にとらわれた時期がありました。今思えば、私は自分のことしか考えておらずどんだけ両親や周りの人に支えられているか
思い知りました。

三年間多くの人と出会い、多くの体験をし、多くの思いを知ることができました。今までの自分のつらい経験には必ず誰かが関わっていて人間関係に悩み嫌になることもありました。しかし、良い経験・楽しかった経験にも必ず誰かが関わっていて(当たり前のことですが…)人と人との関わりをこれからもずっと大切にしたいなと思いました。

もうすぐ私は大学生になります。親元を離れて寮生活が始まるので、自分のことは何でも自分でできるようにになりたいです。そして両親を安心させて、どんな形ででも感謝の気持ちを伝えたいです。

最後になりましたが八正会の皆様、奨学金の寄付をしてくださり本当にありがとうございました。研修会も毎回楽しい企画などを用意してくださり充実した時間を過ごすことができました。八正会に入ることができて心から良かったなと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れずにこれからの自分の人生、悔いの残らないように過ごしていきたいです。

近況報告

倉敷青陵高校三年 蘆原 薫

二〇一六年。遅ればせながら、明けましておめでとうございませう。今季の冬は暖冬で、なかなか寒くなりませんでした。が、やはり、センター試験の日程のあたりから一気に寒くなり、雪も舞って、冬らしさがやっとなりと感じます。

時候の挨拶はこのへんにして、私の現在の近況を書いていこうと思います。まずは受験真つ只中で、勉強勉強の日々を送っています。センター試験がおわって、自己採点をしたときに、自分の思った以上に「事故祭典」になって、私大の出席を増やした結果、超ハードスケジュールな入試になってしまいました。なので、大学には本当に失礼ですが、一つ一つの大学に合った対策を講ずることができません。先日、一つ私大を受けたのですが、過去問を一回解いただけで挑みました。結果が怖いです。後輩の皆様方、受験は計画的に。

また、受験をする中で学んだことも、一つ挙げようと思います。それは、緊張のほぐし方です。受験会場が一緒の友人と、休憩時間にお菓子を交換して励ましあっていたら、

高校生活を振り返って

岡山工業高校三年 高橋 聖

もうすぐ高校生活が終わります。二年生の後半くらいから急に時が流れるのがはやく感じました。気づいたら色々なことを終えて卒業に向けて最終準備をしています。学校に登校するのもあと数回となりました。岡工の制服もあと数回しか着れないし、私は就職するので学生生活もこれで終わりだと思ふと寂しいものです。高校生活は本当に楽しかったです。課題で大変なこともありましたが、色々なことを学べていい勉強になりました。就職するにあたってデザイン科で学んだデザイン技術だけでなく考え方を活かせるように頑張りたいです。四月からは社会人なのでとても不安です。社会人としての自覚をはやくもてるよう何事も精一杯努力していきたいと思っています。そして、残りわずかの高校生としていられる時間を大切にして過ごしていきたいと思っています。

隣の席に浪人生のパンチパーマの人が座りました。受験票はくしゃくしゃで、証明写真はパンチパーマのサイド刈り上げでした。人は見かけで判断してはいけないと言われませんが、この時ばかりは少し笑ってしまつて、緊張がほぐれました。よく、緊張したら、まわりをジャガイモでも思いなさい、と言われますが、実際にそんな余裕は無いと思います。そんな時は、周りの受験生を見てみたりしていいかもしれません。(こつちの方がよっぽど余裕をかましているみたいになります。)

勉強や受験のことばかり書いていけると、気が狂いそうになるので、ここで、私の近況報告は終わろうと思います。さて、このやまびこも、現役生として書かせて頂くのは今回が最後となりました。提出日の前日に急いで書いたり、深夜のノリで書いたりして、読みづらい文ばかり書いてしまったような気がします。しかし、もう最後だと思ふと、なんだか寂しいような気もします。またみんなの作品を読み返して、思い出に浸ってみてもいいかなと思います。

最後になりましたが、八正会の皆様、毎回多額の奨学金を賜り、ありがとうございました。また、様々な研修の場を設けて頂き、人として成長できる機会をいくつも与えていただきました。八正会に参加しなければ出会うことのない友人、先輩や後輩がたくさんいて、入会してよかつ

たと心から思います。ありがとうございます。

今後は、八正会OBとなりますが、研修会に是非参加させていただければと思います。そして、現役生として書いたやまびことはまた視点が違ったものを書いてみたいのです。

高校生活を終えて

倉敷古城池高校三年 酒井彩夏

本当にあつという間でした。今振り返ってみてとても印象に残っているのは、三年生での藤花祭です。自分たちでダンスを考えるとところからするデモンストレーションは特に心に残っています。私のクラスは理系で男子が多く、女子との意見が合わずなかなか思うように練習が進まないこともありました。しかし、練習を重ねていくうちにクラスみんなが一つになっていきました。そして、本番では一番いい演技ができてみんなで涙を流し、すごく感動しました。この時、古城池にこれてよかったな、と改めて思いました。クラスの女子は七人で二年間同じメンバーだったので、とても仲がよくなれました。お弁当を食べる時にみんな

輪になって食べたり、放課後みんなで勉強したり、休みの日にみんなでたこ焼きパーティーをしたり、色々なことを七人でしました。卒業したらみんなバラバラになってしまうのでとても寂しいです。

高校生活では、優しい先生に出会えて気の合う友達もできて素敵な思い出もたくさん作れて、とても充実していました。大学生になっても色々頑張りたいです。

サラバ青春

岡山東商業高校三年 合田紗也

今、思い返してみると三年間はやはり早かった気がする。でも中身はぎっしりだったか？と聞かれれば、うむ…とためらってしまう。ひっかかる原因は、高校生活で一番頑張ったこと〃〃という質問に答えられないからだと思う。部活はほどほどに活動して検定もある程度とって友だちと笑いあって何気なく高校生活を過ごしてきた。頑張ったことが思い浮かばないのは少し寂しい。胸を張って言えることがないからだ。

このことをふまえて大学で過ごす四年間についての目標を考えた。まずは当たり前のことだが、しっかりと学ぶことである。大学生は自らから学びにいく姿勢が大切だと思う。生徒というより学生であるという気持ちをもつことも忘れないでいたい。デザインを専攻するが、もう一つの目標が語学をしっかり学び身につけることである。これからは英語が話せて当たり前、プラスになるということは確実に、

周りと少しでも差をつけるために大切だと思う。この目標たちは決して簡単なことではない。努力と継続と根気がいる、今まで強く努力したことのない私には正直に言うところになりキツイ。でも私は四年間で自分の自信になるものを見つけたいのだ。これは人生のミッションであり、やるしかないのだ(と思込込み)充実した大学生活を過ごしたい。大学に向けてのことばかり話したが、笑いすぎてご飯が進まない昼休みも、お腹がよじれるほど笑ったくだけないお喋りも、親友と帰るとあつという間の帰路も、夜が更けても話が尽きない女子会も全部終わってしまった。けれど一生の思い出になった。ここで私の青春は一旦終える。

八正会を通して出会った仲間とまさかこんなに仲良くなると思っていなかった。みんなで泊まった夏期研修はきつといつでも思い出せるし、いろんな経験が出来る機会を与えて下さったのがとても嬉しかった。最後に、三年間、

多額の奨学金と実りある機会を与えて下さり本当にありがとうございました。この経験を活かし色々なことに挑戦していきます。

バスケットを通じて

倉敷古城池高校三年 吉川智也

僕は小学二年生からバスケットボールを友人に誘われ今もお続けている。

小学一年生の時、僕は倉敷でなく東岡山の方に住んでおりバスケットに全く興味がなく運動することが周りの人に比べて好きでなかった。

休み時間も流行りであったドッジボールをせず少数人数で鬼ごっこをしているだけでボールには体育の授業でしかあまり触れたことがなかった。

小学二年生の時、家の事情で倉敷の方に引っ越すことになった。前にいた学校とは違い学年の人数がとても少ないのですぐに友達が出来たのを覚えている。休み時間にドッジボールを始めてから球技の楽しさが実感できた。

その年の夏、一人の友達がバスケットボールをやらな
い？と誘ってきた。その時はやる気がなく何度も断ってい
た。それでも誘い続けてきたので見学だけ行くことに決め
たが、する気は全くなかった。

見学当日、見るだけと思っていたが結局体験させられと
ても嫌だった。練習が終わった後もする気はなかったが練習
の後、誘ってくれた友達の家に遊びに行った時、いつもと
は全然違う雰囲気で楽しい会話になった。バスケの練習メ
ニューの話しやコーチの事、チームのしくみなどその日は
八割バスケの事だった。話すうちにバスケの事を少しずつ
知り、もっと多くの人から学び上手になりたいと思った。

それ以来僕の遊びでなくプレイヤーとしてのバスケット
が始まりました。

小学校を卒業と同時に所属していたチームも卒業しまし
た。それから倉敷福田中学校に入ると、全国に通用するバ
スケの指導をもらう中でバスケの過酷さから逃げよう
という日も何度もありました。そして卒業後倉敷古城池高
校に入り勉強と部活を両立ということで、出来たかはわか
りませんが頑張りました。社会人のチームも決まり自分よ
りもっと強い人たちとバスケができることが今となっては
嬉しいです。

バスケットを通じて十一年間僕はバスケットボールから、仲
ると共に、八正会の皆様、三年間多額の奨学金をありがと
うございました。

高校生活を振り返って

玉野光南高校三年 三宅 晟

気付けばもう高校生活の三年間が終わってしまいました。
僕は入試の関係で最後の研修会には参加することができま
せんでした。なので少し遅めの時期にこれを書いています。

さて、あつという間の三年間でいろいろなことがあ
りました。その中でも一番の思い出はやはり部活動のこと
です。フェンシングというマイナーな競技でしたが、僕は
本当にフェンシングが好きでいつも本気で取り組んでいま
した。インターハイ出場を目の前の甘さに悔しい思いをし
ました。もう一歩及ばなかった自分の甘さに悔しい思いをし
ました。フェンシング部のキャプテンもやって、一つの集
団をまとめることの難しさや大変さを知りました。そんな
こんなで、部活動では体だけでなく精神面でも成長できた
…はずです。三年間フェンシングをやってきて本当に楽し

間の大切さと礼儀、強い意志も学びました。バスケもでき
ることに感謝をし、これからも上を目指しバスケを続けて
いきます。

高校生活

玉島高校三年 宇野美咲

三月一日に県立玉島高校を卒業しました。

私の通っていた理数科は三年間クラス替えが無くて、入
学したばかりの時はそれがとても不安の種でした。しかし
卒業してみても大好きな友達と三年間一緒にいられたことが
すごい恵まれていたのだなあ、と実感しました。

今年受験生ということもあって普段は賑やかな理数科
も少しずつ受験モードに入っていく、友達と問題を出し合
ったり教え合ったりしながらいい雰囲気を受験を迎えるこ
ともできました。そのおかげもあって春から自分のやりた
い勉強ができる大学に通うことが決まり、とてもワクワク
しています。

これまで支えてくれた先生や友達、そして両親に感謝す
かったです、よかったですと思います。これからは機会があれば
続けたいと思っています。

次に、僕が高校生活で反省しないといけないことがあります。
それは、勉強のことです。最後に勝つことができます
のは、やはり毎日少しずつ積み上げてきた者ですね。僕は
コツコツやるのが苦手なのですが、どうにかしてもっと勉
強しておけばよかったです…。大学に行ってから
もう少し頑張ります。

最後になりますが、八正会の方々、今まで支えて下さっ
て本当にありがとうございます。この恩を忘れず、少し
でも社会へ貢献できたらと思っています。

息抜き

就実高校二年 栗山 恵輔

高校生活ももう二年が経過しようとしています。そろそ
ろ受験に目を向けなければいけないとは思っていますが、
せめてこれを書くくらいは忘れさせてください。そうい
うわけでいつもは近況報告をする僕ですが今回はまた別の

話を。

高校に入った時のクラスで、男子全員と馬が合うという奇跡がおきました。今でも仲良くやっています。僕は部活をしているため忙しく、なかなか予定が合わず一緒に出かけることというのもし少ないです。その代わりに僕たちは週末には大体 Skype で通話をしています。学校以外の場所での談笑を楽しんだりしています。たまに夜更かししてしまうこともあります。逆には互いの親同士が参加したりすることもあります。時々友達のお話に参加したりすることもあります。戸端会議が始まってしまっているという珍事件もありました。その時は僕たち全員通話の裏で大爆笑していました(笑)色々な話ができる上にこういったハプニングが起こることもあるのではやめられないですね。

そんなこんなで精神的にとても元気づけられ、とてもいい息抜きになっています。他にも息抜きはあったりしますがやはりこの手に限ります。

最後になりましたが八正会の皆様、今年もありがとうございます。ありがとうございました。本年度もよろしくお祈りします。

業中のいねむりが多いと言われている。それらだけで日本人の学習意欲が低いとは言えないかもしれないが、一つの指標と言えるのではないだろうか。ではなぜこのような現状があるのか。その一つとして、社会的背景が関係ある。学力が高く、学習意欲が高い韓国やシンガポール、上海などは勉強レベルの高い大学に行くことによって、一般的に良いと言われる職業に就くことができ、収入もよく安定した生活ができると言われている。逆に言えば勉強しなければならぬということだ。では日本はどうか。良い大学、たとえば東大、東大を卒業したがニートであるという話をみなさんどこかで耳にしたことがあるのではないだろうか。それが事実かどうかはさておき、そういうこともあるのかと多くの人が思っているだろう。また、将来に対する明るいイメージがない学生も日本には多くいるというのを聞いたことがある。ただ、ここで日本が韓国やシンガポール、上海などを真似する必要があるのか、というところは私にはないと思う。日本の学生に足りない将来に対する意識をいかにして高めるのかそれが大事なのではないだろうか。これらを調べて私が思ったことは、将来について考える時間を幼稚園、小学校のうちから増やすこと、色々な職業をしている大人と話をすること。その点に関して言うと小学校の社会科学見学は良いと思った。中学校、高校でも取り

教育について考えて

岡山操山高校二年 熊谷舞佳

私の学校には総合的な学習の時間として、「未来航路」という時間があり主にテーマを決めて研究を進める学習だ。もちろん中学校でも取り組まれているため、私は未来航路歴五年といったところだろう。今年の未来航路はグループでの活動だったため、私は私を含めた五人で研究をした。私はもともと教育に興味があったため教育に関することを調べており、その中でも特に興味をもったことがあったので、それについて書きたいと思う。

「日本人の学生の学習意欲が低い。」これについてみなさんはどう思うだろう。教育について少し調べただけの高校生が言えることには限りがあるし、全くもって不十分ではあるが、私が思ったことを素直に書こうと思う。

そもそもなぜ日本人は学習意欲が低いのか、また低いと言われるのか。OECD(経済協力開発機構)が進めるPISAと呼ばれる国際的な学習到達度調査によると学習時間やその他学習意欲と見れる項目について日本はOECD平均より低くなっている。また、日本人は他国に比べて授

入れると良いのではないだろうか。そこまでいかないとしても、色々な職業にふれる機会がこの先もっと学校の授業として増えるといいなと思う。また、先生の不祥事が多く目立っている現状を早急に改善し、近い将来が、教育者としての自覚を持った信頼できる人のみが先生である世の中になっっている必要があるはずだ。

健康について

明誠学院高校二年 黒田尚輝

非常に寒い時期になってきた。少し暖かい日が続いたと思うとすぐに寒くなってくる。こんな時にはワッフルが食べたい。ワッフルといえば岡山駅にワッフル屋さんがある。改札に近くなるといつも良い匂いがしてくる。僕は今のところ全ての味を制覇している。しようもないと思われるかもしれないが、実際しようもない。でもこれがなかなか大変なのだ。なぜなら期間限定という壁がそこにはあったからだ。期間限定という言葉は不思議と人をひきつける。期間限定も制覇するというのは決して簡単な道ではなかった。

来る日も来る日も看板をチェックし続けなければならぬのだ。期間限定とは読んで字の如く販売期間に一定の期間が設けられている。それは最もシンプルであるが非情なもので昨日は買えたものであっても今日になると買えないということが起こり得る。そのため看板のチェックは僕の中で大切な習慣となっていた。

そうしてワッフル屋さんと僕の距離が近くなりつつあったある日、僕は発見したのだ。その日は、昼飯をワッフルで済ませようとしていた。いつもは一つしか食べないのだが、二つ注文してみた。店員さんから手渡された二枚のワッフルにはいつもの温かさ、できたて感がないのだ。僕はびつくり仰天、こりやたまげた。ワッフル屋さんは一つ買う人はすぐに食べる人だとみなし、できたてをくれるが二つ以上買う人には作り置き系のワッフルをわたすのだ。その事件以来僕はワッフル屋さんとは疎遠になりつつある。そのおかげで帰り道でのカロリー源がなくなり、少し血行が良くなった気がする。結構なことだと思う。

犬と私

倉敷青陵高校二年 井上 真実

好きな動物は何かと聞かれたら私は「犬！」と即答する。犬に関しては誰にも負けたくない。そう思っただけで犬種名を覚えたこともある。猫が嫌いな訳ではないけれど、自分は紛れもない犬派だ。物心ついた時から家にはいつも犬がいて、私も毎日世話をしている。犬は賢くて喜怒哀楽もはっきりしている。なのに時々無邪気になって、走り回ったり甘えてきたりする姿もいとをかしである。

小学校五・六年生の時、私は夏休みの自由研究で捨てられたり迷子になったりした犬や猫のことについて調べた。そこで知った事実は、無責任な飼い主や業者によって沢山の動物たちが犠牲になっているということ。また殺処分される犬は日本全国で年間十萬頭にも及ぶそうだ。海外には、犬などの動物を人間が正しく扱い、平和に共存している国もある。きちんとしつけをしたり、不妊・去勢手術をしたりすれば助かる命がある。それらの事実を人に伝え、また不幸な犬などの動物をなくすため、私は犬（などの動物）に関わる仕事に将来就きたいと思うようになった。

しかし今、良い意味で犬にこだわらなくなった自分がいる。中学校や高校で色々な経験をしたことで視野が広がり、犬だけでなく他の動物や自然に関わる仕事もしたいと思うようになった。そんな私は現実的な目標を農学部に行きたい。とはいえ、私が数ある学問の中から最も魅かれているのは「獣医学」だ。だから本命は獣医学部（科）。そこなら大好きな犬のことをとことん学べる（であろう）と思うから。けれど獣医学部は医学部と同じぐらいの難関で、今の私の学力では到底及ばない。だから現状では夢の夢なのだが……。

進路に関しては、諦めずに自分のベストを尽くしたいと思っている。そのために今年には自分に挑戦し、今まで以上に勉強に全力で取り組む一年にしたい。結果がどうであれ、出来る限りのことをすれば、一年後に後悔はきつと残らないと思う。

そして私が将来どんな道に進もうが、私にとって犬が大切な存在であることに変わりはない。これからも「犬と私」のつきあいは続くだろう。

三年0学期

岡山城東高校二年 小林 陽一郎

年が明けて約一ヶ月が経ち高校二年生も終わりに近づいています。そんな中私たちの学校の中では「三年0学期」という言葉が飛び交っています。最初はまだ受験まで一年以上あるし、なんて思っていました。でも最近この意味が徐々に分かってきた気がします。

三年生のセンター試験が終わった時、クラスの雰囲気は一変しました。予習・復習を皆が完璧にこなし、休み時間も勉強している姿が多く見られます。そんな中で生活していることややはり自分も勉強を頑張らなければ、と思います。受験は団体戦だ、個人でやっても合格はできない、と一年生の頃から先生に言われてきましたが、ようやく理解できました。何事も一人でやっていると長く続けるのは難しいですが、友達が、周りの人がやっていたら案外勉強も苦じゃないなと気づきました。

勉強だけでなく部活でも同じことが言えると思います。あいつには負けない、という気持ちで日々部活をしようとすると有意義な時間になります。

部活では最後の大会が近づき、勉強はセンター試験まで一年を切りました。クラスの皆で一致団結し、三年〇学期である今を大切に過ごしたいと思います。

最後になりましたが、八正会の皆様今年も一年よろしくお願ひします。

今、生きているこの瞬間を 全力で生きる

岡山一宮高校二年 守時 優里

先日、センター試験も終わり、試験の分析や二次対策の話をよく耳にし、来年の舞台は私たちの番だと思うと、身の引き締まる思いがする。今からモチベーションを高め、一分、一秒を大切にスキルアップに努めていきたい。

高校生活にも慣れ、自分の勉強スタイルも少しずつ確立してきている。しかし、入学時の緊張感や国立大学への熱い志が緩んできているように思う。そこで、今回の原稿を機にさらにモチベーションを高め、本年のスタートとしたい。

る日がくると思っている。

私が目指す教育や研究の分野は、常に自ら学ぼうとする意志を持ち続けなければならない。自らの存在が、人に喜んでもらえた時、自分の幸せも実感できるのではないだろうか。

人の一生には限りがあり、死に向かって生きている。私は「今、生きているこの瞬間を全力で生きる」というテーマを模索し、自分のライフ・ワークを見つけていきたい。今日私が学べているのは、八正会のご支援をはじめ、多くの先生方や地域の人々に支えられているからである。この御恩に報いるためにも、日々精進し良い結果を出すことだと思ふ。また、教育に携わる仕事に就くことで、日本の将来や世界に羽ばたける人材の育成に寄与できる。

一分、一秒を大切に過ごし、「今」を全力で生きたいと思ふ。来年のこの会に、笑顔で出席できるようありたい。

現在私は、自分の目標を達成するために、勉強している。大学合格や就職決定がゴールではなく、そこがスタート地点だと認識している。自分の真の目的を達成する第一歩が、「大学合格」である。その目的を達成するために、今までの思考パターンや生活習慣を見直し、勉強をする環境を整えていきたい。特に、今まであまり意識してこなかった、以下の三点について気をつけていきたい。

①「時間対効果」を意識し、一時間にできる分量を増やしていく。分単位でスケジュールを組み、空いた時間を勉強に充てる。

②「いつか」「今度」という言葉を使わず、「何日まで」「何時何分までに」と必ず期限を切ってスピーディーに行う習慣を身につける。

③すべての行動に、「こじつけ目的」を持ち、持てないことには手を出さないようにする。

この三点は、東進講師の安河内氏の著書の中から見つけた言葉で、自分の「やる気」を引き出すきっかけになった。これからの一年間は、「自分が今やるべきこと」に集中し、色々な誘惑や日頃の八方美人を抑え、自分を律していきたい。当たり前のことを正確に、スピーディーに、毎日続ける「しつこさ」をもって望みたい。毎日続けている勉強は、そのうち勉強とは感じず生活の一部となり、楽しみに変わる。

去年を振り返って

瀬戸高校二年 植原 勝也

僕は今年の四月からいよいよ受験生の三年生となります。去年の一年間を振り返ってみると二年生の一年間は部活動でも三年生が引退し、自分たちが中心となり、学校行事でも二年生が中心となり、とても忙しかったですが充実している、すごく早くあつという間の一年間でした。

去年の一年間で自分が一番頑張ったと感じるのは、部活動です。三年生が引退し、自分たちが引っぱっていく立場となり今までより部活動のことを考えたり野球についてやす時間が多くなりました。副キャプテンとなり毎日の練習にしっかりと目的を持ち取り組み自分たちの目標に向けて家でも努力するようになりました。その結果秋の大会の公式戦では、目標までとはいきませんが中々よい結果となり自分たちの課題もたくさん見えてとてもよい大会となったと思います。この課題を克服できるように今のオフシーズンを毎日意識高く練習に取り組んでいます。そして今年の最後の夏の大会まで半年ほどしかないので一日を大切にしていきたいです。

去年の一年間での学習面で振り返るとあまりよい結果ではありませんでした。ですが自分の将来の目標もなんとなくですがあるのでそれに向けて毎日コツコツと頑張っていたと思います。

タイムリミット

岡山操山高校二年 藤原 淳美

新年が始まってはやくももう一ヶ月がたとうとしています。時がたつのは早いもので高校生になったあの頃が昨日のことのように思い起こされます。しかし現実として私はあと三ヶ月後には三年生となり、晴れて受験生の仲間入りです。

高校三年生となると「大学受験」という大きな目標が迫ってきます。一年生・二年生の段階では薄ぼんやりと目指すもの・大学を探していましたが、三年生ともなるとやはりはっきりと決断することが求められます。そして何より今までの苦手な教科の復習や発展することを強く求められます。これを達成するためには今までの経験に基づく学習

宝塚歌劇団について

山陽女子高校二年 影山 都花

一九一四年に初の公演を行って以来、今日も人気を集める未婚の女性だけで構成された歌劇団。年間公演約一三〇〇回、観客動員数約二五〇万人、歌劇団員総数約四〇〇人。現在は、花・月・雪・星・宙の五組と、いずれの組にも所属しない専科に分かれている。

そして、あの素敵な舞台に立つことができるのは、宝塚音楽学校を卒業した生徒のみ。毎年一〇〇人以上の受験者がいる中で合格することができるのは、たったの四〇人。東の東大、西の宝塚と言われているほどだ。

宝塚音楽学校は他の学校とは違い、毎日、声楽、バレエ、日舞など劇団に必要な事柄についてみっちりレッスンが組まれている。その他の授業には、モダンダンス、タップダンス、演劇、ピアノなどがある。

この宝塚音楽学校は、かつて「女士官学校」と呼ばれるほどに厳しさは有名であった。予科生・本科生と二年制で、特に予科生は、毎日が地獄のような日々だ。登下校の際には、嬌声や笑い声を立てず、

スタイルが重要になってきますが、私は肝心なところでも自分に負けてしまっと思うような学習スタイルを確立することができませんでした。一月の終わりになり着々とタイムリミットを迎えようとしている今、ようやく自分の弱さに気づくことができました。

私はずっと受験勉強ひいては大学に行く意味を勘違いしていたのかもしれない。正しい学習スタイルを身につけることで学習が定着し結果につながることで、自分の将来の夢の実現に結びつくのではないのでしょうか。また私の考えとしては、学習スタイルを確立することは規則正しい生活習慣に結びつき全ての循環が円滑に回っていくのでは、と思っています。高校三年生を間近にして大学受験へのタイムリミットをリアルに感じることで学習スタイルを身につけなさいという言葉の本当の意味を理解することができました。

これからタイムリミットが近づくにつれて苦しくなっていくと思うので、私はあえて少し余裕をもって勉強をしていきたいと思います。

姿勢を正して、まっすぐ前を見つめ、足早で、二列縦隊で行進する。本科生の前では、笑顔禁止。早朝から隅々まで丁寧に掃除をし、本科生からチェックを受ける、などまだまだ厳しい規則はたくさんある。この壮絶な学校生活を終えることができると、あの華やかで、夢のような舞台に立つことができる。

宝塚歌劇団の特徴は、女性だけの劇団であるため、男役も女性が演じているというところだ。女性が演じることにより、理想の男性像を描き、あんなにもリアルで素敵な男役を演じることができるのかもしれない。

私は、高校一年生の時、初めて宝塚を生で観劇した。言葉が出なかつた。出演されている方々はもちろん、舞台装置、大道具、舞台構成など全てが豪華で、予想をはるかに超えていた。生で観た人にしか分からない迫力と壮大なスケール。

どんな年代からも愛され、お客様に笑顔、感動、夢などを届けられることができるものこそ、宝塚歌劇団である。これからも、もっとたくさんの方々に宝塚歌劇団の魅力を知って頂き、私達に希望を与え続けてくれることを願っている。

近況報告

津山高校二年 戸田 花

受験生になるまであと二カ月ほどとなりました。志望校も決まったので、それに向けて一日一日を大切に努力していこうと思います。

さて、大学受験生になるということはすなわち親元で暮らすことも残りわずかになるということです。そう考えると、今のうちに親としっかり関わっておくべきだなあと思っています。これまで、学校から帰ってご飯を食べたらすぐに自分の部屋に籠もって母と顔を合わす時間はほとんどなかったのですが、最近は意識して夕食後に母と色々な話をするようにしています。コミュニケーションをとることはとても大切なことだと実感しています。家を出た後に、もっと話しておけばよかったと後悔しないように過ごしていこうと思います。

受験が無事終われば、母と二人で旅行にでも行きたいなあ。

指摘された内容は、今まで考えたこともなかったので、後の研究のヒントになりました。

中でも一番大変だったのは、一月でした。研究内容が煮詰まってしまった私たちは、そのテーマをさらにレベルアップさせた実験に挑戦しました。部活にもなかなか顔が出せない日が増えました。校内での発表会などもあり、慌ただしく一か月が過ぎていきました。

二月に県内の理数科が集まって行われたシンポジウムでの口頭発表の発表者に選ばれ、緊張の中で、今までしっかり研究した内容が自信をもって発表できました。結果、「鉄を腐食から守るクエン酸効果」は、第二位の賞をいただきました。最後までがんばったことが良い結果に結びついたと思います。自分にとって貴重な経験ができた一年間でした。

先輩の手塚賞準入選

総社南高校二年 吉川 朋之

今回のやまびこの原稿には、僕の所属する美術部の先輩

「課題研究」で優秀賞を獲ったこと

玉島高校二年 名田 怜央

私は玉島高校の理数科に在籍しています。理数科の最大の行事の一つに「課題研究」があります。

一年間かけて一つの課題テーマについての研究を行っていきます。

私は化学分野の研究を選択しました。まずテーマを決めるのですが、テーマがなかなか決まらず、班で何度も話し合いをしたものの全く思いつかず、やつとの思いで決めた研究テーマは、「鉄の腐食を促進させる方法」でした。設定したテーマの実験内容については、自分たちで考えなければならなかったもので、とても苦労しました。

六月には、中間発表会がありました。テーマを設定したばかりの班も多く発表という発表はできていなかったと思います。八月は、夏休みにも関わらず、部活の後に課題研究の実験を行う日々になり、一日中学校にいたことが多くなりました。十月には、岡山大学で他の高校や大学生の人達との合同発表会がありました。大学の教授の方々からは、専門的な鋭い指摘をいただきました。

が、「少年ジャンプ」の第九十回手塚賞で準入選を受賞し、見事賞金百万円を手に入れたことについて書きたいと思います。

漫画を読まない方でも「少年ジャンプ」と言えばおそらく聞いたことがあるはずです。このジャンプが誇る新人漫画賞で、ジャンプ連載作家を多数輩出しているのが『手塚賞』（ストーリー漫画部門）、『赤塚賞』（ギャグ漫画部門）の二大賞だと言われているくらい凄い賞なのです。ちなみに「ワンピース」の尾田栄一郎先生も過去受賞しています。先輩は僕が高校に入学したとき、三年生だったので、まだ十九歳。色々な想像に、後輩一同、期待しています。

このニュースを知ったのが、僕が、少し前に公開していた映画「バクマン。」を観て二ヶ月くらいしか経っていない時だったので、本当に驚きました。なぜなら、「バクマン。」は、高校生二人が、ジャンプ漫画で頂点を目指そうとコンビを組み、手塚賞を受賞。ジャンプでの連載を勝ちとる、といった内容の漫画が原作の映画だったからです。

先輩の受賞した作品の主人公の名前は、『安藤芸術』。

ストーリーは、次期美術部長に美術部への勧誘を受けた『芸術』は、そこで美術部のエースと出会い、半年後に行われるデッサンコンクールで戦う事に。練習で上手くなれず苦悩する『芸術』だったが……。というもので、僕たち美

術部員にとって、まさに「我が校が舞台か」と思えるような内容なのです。

美術部は周りから暗い、地味な部活だと思われがちですが、総社南高校は類系で美術工芸系があるため、部員は九十名近くいて、彫塑・絵画・デザインの専攻により、日々制作に取り組み、精力的に活動しています。

南翔祭（学園祭）の時に展示する作品、校門付近の作品や応援幕なども凝った作品が多く、力作揃いです。二〇一六年の学園祭は、僕は三年生となり、高校最後になるので、今までに負けないような作品を皆で完成させたいと思います。

美術部全員が、今回の先輩の受賞を誇りに思い、それぞれが目指す道は違っていても、個々が面白いと感じる感性を大切に成長していきたいと、モチベーションが高まりました。

最後に、遅くなりましたが、三年生のみなさん、二年間ありがとうございました。僕は人とコミュニケーションをとるのが苦手なのですが、色々話しかけてくれて、夏の研修ではいい思い出を作ることができました。これからもそれぞれの進路で頑張ってください。

にも、全国大会で最高の演奏をして、良い結果を残せたらな、と思います。

高校生になって

津山高校一年 産 本 龍

早いもので、入学してもう九か月も経ってしまいました。しかし、何も考えずにただ過ごしてきた、というわけではない。むしろ、日々学ぶことや発見したことが多すぎて、あつという間にもう九か月、ということである。

まず入学して圧倒されたのはその暴力的なまでの人口密度である。およそ九百人の生徒と、それを支える先生方、あわせて千人あまりの人々が、高校としてはやや小さめの我が津山高校の敷地内に押し込まれているのである。そこには実に多様な人物が居り、日々が驚きの連続だった。今までずっと固定されたメンバーで九年を過ごしてきたのもあり、自らがどれだけ小さな世界で生きていたのかを、あらゆる面で思い知らされた。宿題をこなすだけで頂点に立てた吉井、手段を尽くして一桁にすら入れない津山。要領

全国大会への思い

岡山城東高校二年 濱 田 実 苗

先日、私の所属する岡山城東高校管弦楽部が全国大会に出場することが決定しました。四月から全国大会出場を目標にして練習に励み、八月末には予選のテープ審査のための録音・応募をし、ドキドキしながら結果を待っていました。全国大会に出場できるという結果を聞いた時は本当に嬉しくて、部員皆で大はしゃぎしました。そして、その全国大会の本番は十一月十四日にあるので、もう残すところわずかです。部員皆が、放課後だけでなく、朝、昼も時間を見つけては練習を頑張っています。

そして、今回の全国大会に向けて私たちには特別な思いがあります。それは、顧問の先生を喜ばせたい、というものです。実は、顧問の先生は岡山城東高校創立以来ずっと勤務していて、来年で退職されるそうなのです。来年は色々な行事があつて今年以上に忙しいため、全国大会に行けるチャンスは今年が最後かもしれません。だからこそ、先生はすごく燃えていたし、全国大会出場が決定した時は本当に嬉しそうでした。そんな先生をさらに喜ばせるため

の良さには自信が持てた吉井、自分の力不足を感じる津山。全ての側面において、津山には「上」が存在していた。

これは正月明けに津高主催で行われた希望者のみの勉強会「武蔵セミナー」での話である。セミナーは作州武蔵ホテルに三日間宿泊して行われ、それは風呂上がりに起こった。不思議なもので、ずっとやっていたものに、人は簡単にとりかかることができる。そういうわけで、私は次のスケジュールである自習に一番乗りするため、会場であるホールに十五分前に向かった。扉を開けると、そこには人がいた。もちろんトップ層はこぞって参加するセミナーである故一人ぐらいたら理解できたが、三人もいたものだから驚いた。そこにいたのは奇しくも、一部から「御三家」と崇め奉られている最上位の三人だった。私はその後光のさしそうな光景に妙な圧力を受けつつ、この三人と自分との決定的な格差を目にした気分になった。いや、間違いなく目にしたのである。ちょうど三人揃っていた時に扉を開けられて良かったと心から思う。今自分に必要なのは打ちひしがれることなどではなく、彼ら以上に「やる」ことなのだ。と理解できたからだ。三日間勉強漬けにされた武蔵セミナーだったが、一番の収穫はと問われれば間違いなく得たこの意識であり、そして先生方もきっとそれを望んでおられたのだろうと思う。

確かに学業だけが高校ではないが、それでも学生の本分は確実に学業であるはずだ。まだ時間はある。東の京に行く目標はただただ遠いが、果てるならば力尽きて。安楽死など、望むものか。

今年の目標

岡山操山高校一年 杉岡 大輝

今年の私の目標は、時間を効率良く使うということだ。昨年は高校生活一年目で、やることの多さになかなかついていけなかった。宿題のみならず、毎日の予習、復習をする時間も確保することが困難であった。なぜ勉強時間を確保できないのか。その理由の一つとして考えられることは、時間の使い方の効率の悪さである。よく考えてみると、部活から帰ってきてから、ダラダラとスマホをいじったり、テレビを見ていたりといった無駄に過ごす時間も多い。

そこで私は、毎日の生活を記録することで効率の良い勉強を行おうと考えた。以前から学習予定を立てて勉強を行うことはやっていた。しかしなかなか予定通りに進まず終

わってしまうのが大半だ。そこで、「予定」ではなく「したこと」を時間に沿って書き出す。すると、自分の生活の無駄が分かり、改善できるようになるのである。

実際にこの生活記録をつけはじめてから、自分の生活が見直せるようになり、学習時間の確保が容易になった。また、勉強面以外でも生活記録をつけ出して改善したこともある。部活では短い練習時間をいかに効率良く使うか考えられるようになった。生活リズムが整い、以前より健康になったような気もする。

このように、時間を効率良く使うことで様々な恩恵が得られる。今年は充実した時間の過ごし方で充実した高校生活を送っていこうと思う。

一年を振り返って

岡山一宮高校一年 小竹守花 恵

高校一年生もあと少し。今年度は高校生活スタートということもあり内容の濃い一年があつという間に過ぎてしまいました。体感スピードは五ヶ月！と言っても過言じゃな

いくらいです。そんな忙しさに振りまわされるような日々

ですが新しい世界が見えた分、学んだことは多くあります。まずは学業について。私は高校へ学区外から通っているので登下校は大変だし朝も早ければ帰ってくるのも遅いです。そんな私にも予習、復習、テスト、模試、補習、追試、追々試、追々々試：もうやってられない!!予習と課題だけで精いっぱいなのに+aをする暇なんてありません。せっかくの高校生、勉強漬けの毎日なんてはつきり言って嫌です。とは言えども学生の本分は勉強。避けては通れない道です。そこで私が実践しているのはできることだけを完璧にする、ということ。+aをする時間がないのであれば予習、課題を自分で頑張ればおのずと力はあるはず。みなさん答え写してないですか？私はそれを絶対にしないようにしています。そのおかげ(?)で成績はそこそこキープできていますし今のところ追々々試も受けたことはありません。

もう一つ、努力することについてです。私は弓道部に所属しています。弓道は射込めば射込んだ分上達するものだと思います。普通科高校は商業や工業の高校より部活の時間が短いので時間の有効活用が大切です。なので今はなるべく毎日朝練に行けるようにしています。やはり上達への近道はコツコツ努力するというのを改めて痛感させられ

ました。

来年度になると高校二年生ということでも環境が変わります。ということは視点が変わり新たな発見ができるチャンスとなります。そのチャンスをしっかりと活かし日々心身ともに進化していきたいです。

時間の大切さ

岡山城東高校一年 青山 公士

高校に入学してもう一年が過ぎようとしているが、自分はいまだに一日二十四時間という限られた時間をうまく使えていない。毎日忙しくて、計画をたててもそれを実行できないことがほとんどだ。だれもが一度は、「時間がゆつくり進めばいいのに。」とか「一日の時間が増えればいいのに。」なんて考えたことがあるだろう。だがこんなことはできない。だからこそ限られた時間をどう上手に使うか。その点で損するか得するか決まるのではないかと考える。

そこで自分が自由に使える時間が一日に何時間あるのか

考えてみた。普通学生は学校に通い、その中でもかなり多くの人が部活動に入っている。家から学校までが遠い人は通学時間が長くなる。こうして考えてみると、自由な時間というものはかなり少なくなってくる。せいぜい四時間程度だ。自分の場合、この少ない時間で勉強、趣味、その他もろもろたくさんをしなければならぬ。さらに現代ではスマートフォン、テレビ、パソコンと人間を誘惑してくるものがたくさんある。これらに気をとられてしまい、ただでさえ少ない時間でやらなくてはならないことができなくなってしまう。このように時間を正しく有意義に使うということはかなり難しいことなのである。

では時間を正しく使うにはどうすればよいのか。自分は目的によって周囲のものを分類してその目的のために必要なものだけを用いるとよいのではないかと考える。例えば、勉強するのにケータイやゲーム機は必要ない。勉強道具だけをもって机に向かうと勉強に集中できる。もちろん机は片付いているという前提だ。

こう考えてみると時間は周囲のものや環境と深い結びつきがあるということがわかる。時間という流動的なものと周囲のものという静止しているものにつながりがあるというのはとてもおもしろい。

時間そのものを捉えるより周囲のものに目を向けるほう

このまま、ネガティブ思考でいけば絶対に自分の成長の妨げになると反省し、新しい年は、ポジティブ思考でいようと決心した。

しかし、今までにも何度か同じように心を改めた事はあったが、心が折れる出来事がある度に、また、やっぱりネガティブにという流れを何度も経験してきた。もう二度とこの流れを私は経験したくない。そのために自分のポジティブな考えの土台となる座右の銘を決めた。それは、「日進月歩」だ。

日に、月に、絶え間なく進歩し、発展するという意味を持つこの言葉なら、心が折れそうな時も、私を前に向かせてくれると思う。

新しく迎えた年は、「自分はできる。」、そんな強気な思いで文武両道に励む年にしたい。そして、自信に伴う努力を積み重ね、日進月歩していきたい。

が時間を正しく使うことができるのではないか。みなさんも時間について考えてみてはいかがでしょう。

新たな年を新たな気持ちで

岡山操山高校一年 佐伯 吏咲子

高校生活が始まって約一年が過ぎた。中学の頃と比べて、勉強の量が半端なく多く、その上部活もあり、忙しいと感じる日々であったという間に過ぎた一年だった。

私はそんな一年を振り返り、新しい年に向けての反省点を取り上げてみた。

それは、「ネガティブ思考」だったことだ。進学校に通っていることで、周りの人の勉強の実力は高く、授業中やテストの順位で自信をなくし、劣等感を感じることは度々あった。また、部活はハンドボール部に入部したが、なかなかチームに貢献できるプレーができなかった。そのような時の私の気持ちは「自分は中学で吹奏だったから……」「自分はできないんだ。」と、まさにネガティブ思考であった。

決意

岡山朝日高校一年 植本 圭 祐

気がつけばもう二月でもうすぐ一年生が終わってしまうと思うと、とても早い一年だと感じます。いろいろ思い出すと、楽しかったことなどたくさんありますが、少しばかり後悔が残っています。

それはもう少し早くからもっと勉強をすれば良かったという後悔です。今まで怠っていたわけではなく、成績も比較的良い方でしたが、もう少し寝る時間を削って、一日の勉強時間を増やしていたらと今とても思います。昨日の年末くらいから、先生の言うことを真面目に聞き始めて、教材を買い、友達にも質問をしたりし始めました。一年のうち一年生の復習を完璧にしたいと考えてはいるのですが、よくよく考えれば無茶なので、後悔とともに、最近、死ぬ気で勉強しています。

私は文系を選びました。一年生がこんなにも早く終わったので、二年生になったら、絶対に復習をしつかりしようと思います。朝日という良い環境にいるおかげで、志望校もはつきりしてきました。勉強へのやる気に火がつくのが

かなり遅れましたが、これからは、大学入試を意識した学習に精を出そうと思います。

読書感想文

岡山東商業高校一年 三宅 竜 矢

僕が読んだ本は「貴族と奴隸」という本です。

この本は、いきなり拉致された中学生三十名ぐらいが金色の服を着た貴族の五人とそのほかの黒色の服を着た五人一グループの五グループに分かれ、貴族は屋敷に住み、奴隸は足に五キロぐらいの鉄の玉をつけられた上に五個の牢獄に入れられてしまいます。一つの牢獄に一人の貴族が支配しています。しかも、その牢獄は、地面はそのままでももちろん風呂はなく、敷居のないトイレと水が出る蛇口があるだけ。そしてこの主人公は盲目の少年です。そしてこの本の最後の最後、作者の山田悠介さんらしいどんでん返しがまっています。

ちなみに、この本を書いた山田悠介さんは、知っている人もいるかも知れませんが、「リアル鬼ごっこ」の原作を

書いた人でありその他に「スイッチを押すとき」、「その時までサヨナラ」などを書いている人です。この人の書く、本の特徴は、最後に予想外の出来事が、起きるということです。

僕は山田悠介さんの本を何冊か、読んでいますが毎回最後を、どんなふうになるかを、予想していますが、いつもその、予想の斜め上をいくラストを用意してくれていて、毎回最後どうなるか、楽しみにして読んでいます。

この本はさっき書いたとおり、盲目の少年「伸也」が主人公です。この主人公は盲目なのですが、特技がなんと絵を描くことなのです。どうやって絵の具の色を見分けるのかというと、指の感触だけで色を見分けさらに描く対象物の凸凹などを頭で把握し、絵を描いていきます。

僕はこの本を読んでみて、読んでいくうちにどんどん先を、読んでみたいと思いました。今、僕のオススメの本です。

一年を振り返って

倉敷古城池高校一年 小 西 菖

高校に入学してからもう一年が過ぎようとしています。

この一年を振り返ってみるといろんなことがありました。その中で最も印象に残っているのが藤花祭です。中学校の時とは違い先輩方と協力して何かをするということが多かったからです。そして初めての藤花祭で二位を取ることができチームの皆と喜んだのを今でも覚えています。

勉強について振り返ってみると、勉強はどんどん難しくなってきた授業についていくのがやっとなです。平日の勉強の目標時間は三時間です。しかし、登下校や部活動で疲れたりと目標時間だけ勉強することがあまりありませんでした。そのため、勉強ではわからないことがたくさんあり困ることも多々ありました。やはり高校の勉強は中学程度ではだめなんだと改めて感じさせられました。

また、高校に入学し毎日のように高校生って時間がないなと思っています。だから、これからは一日一日を少しずつ大切にし一年生で学んだたくさんさんの事を今後の学校生活にいかしていきたいと思っています。

最後になりましたが八正会の秋、冬と、参加することができませんでしたが今年だけでも参加できるようにしたいです。今年もよろしく願います。

年賀状



●平成11年度卒 佐々木(森崎)睦



●平成6年度卒 宮川 由佳子



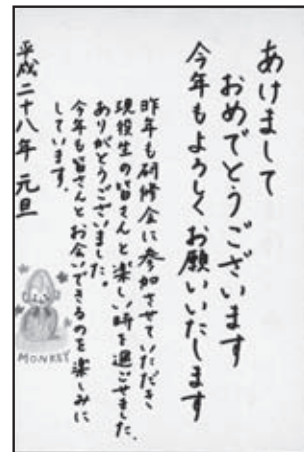
●平成2年度卒 吉澤 悦子



●平成26年度卒 後藤 真依



●平成25年度卒 山磨 貴幸



●平成24年度卒 後藤 千尋

年賀状



●昭和49年度卒 長田 宏



●昭和47年度卒 難波 弘行



●昭和37年度卒 児子 浩



●昭和60年度卒 益田 三和子



●昭和60年度卒 垣内 顕治



●昭和55年度卒 宮田 正美

～ 事務局よりお願い ～

- ①会員登録がまだの方は、是非登録をお願いします。登録には、パスワードが必要です。パスワードは事務局が発行しますのでご連絡下さい。
- ②卒業や結婚、転勤等で引っ越された場合は、必ず事務局まで転居先をご連絡下さい。巻末に「住所変更連絡はがき」を添付していますのでご利用下さい。また、八正会のホームページ (<http://www.hasshoukai.or.jp/>) のお問合せ欄からメールで送っていただいても結構です。

八正会



●昭和62年度卒 日下 天

編集後記

今年の元旦は久しぶりに、初日の出を拝みに貝殻山に出かけた。初日の出のいわれを調べてみると、初日の出とともに年神様（としがみさま）が現れると信じられていて、新しい年の幸せを祝い、祈る神聖な行事がお正月であり祖先神と新しい年の象徴が初日の出（ご来光）であるそうだ。

今年の元旦は晴天で、ご来光を拝むことはできた。午前7時12分が日の出の時刻なのだが、地平線より山並みが続き、その上に雲がたなびくため貝殻山山頂からは7時20分過ぎにやっと初日を拝むことができた。車で見に来ていた方々は7時前から来ていたのだろうか。今か今かと体を震わせながらご来光を待っていた。

初日の出を拝んだ後は、初詣。今年は平成5年（1993）に世界文化遺産に登録され昨年大天守保存修理工事が終了した姫路城に行くことにした。

山陽自動車道上り線も順調に進み1時間ほどで姫路に到着。元旦には入場料無料もあって多くの方が訪れていて、一時は入場制限もかかるほど。白漆喰総塗籠造（しろしっくいそうぬりごめづくり）という工法が用いられた漆喰壁。別名「白鷺城」の白く輝く天守六階に登り、姫路の街並みを見下ろし殿様気分。

昼食をはさんで、赤穂の大石神社を参詣。こちらも多くの方が訪れ参拝している。最初の運試し、義士みくじ（第十一番）をひいて、見事大吉。「わがおもう 港も近く なりにけり ふくや追手の かぜのまにまに」縁起物のくまざさをいただき、今年も良い年になりますよう、と願って帰途につきました。

今年もみなさんに幸せが届きますように。

【元旦で55才となったY U A】

発行責任者

落 司 量 則

公益財団法人 八 正 会（トンボ育英事業団体）

郵便番号七〇〇―〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

（株）トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二―

協同精版印刷株式会社

印刷所

平成二十八年三月

